

（ご近所）のみなさん、日本共産党です。ただいまからこの場所をお借りしまして、政策の訴えをさせていただきます。しばらくの間、「ご協力をよろしくお願いします」。

みなさん、イラクで日本人の民間人3人が拘束され、要求が受け入れられなければ殺害するという脅迫は行われています。断じて許されない蛮行です。日本共産党は、政府が三人の無事な解放のためにあらゆる努力を尽くすことを求めます。同時に、自衛隊派兵によってこうした事態が引き起こされる危険があることは、かねてから心配されていたことであり、あらためてすみやかな自衛隊の撤退を求めるものです。

みなさん、いま国会でイラク派兵とともに熱い争点になっているのが年金問題です。日本共産党が実施いたしました市民アンケートにも、「医療費などの負担が増えているのに、年金までどんどん減らされる、これでは生活のメドがたたない、将来が不安です」と、多くの方の切実な声が寄せられています。

ところがみなさん、小泉内閣の年金「改革」案は、こうした不安の声に比べると、保険料の大幅な引き上げと、年金受けとり額の一律15%引き下げを、今後は国会審議なしで自動的に進む仕組みをつくらうというものです。断じて許せません。

日本共産党は、憲法25条に明記されている「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するために、このほど、現在無念金の人も含め、無条件ですべての国民に最低月5万円の年金を保障する「最低保障年金制度」を基礎にした、年金制度の抜本改革を提案しました。

だれもが生活できるといふ年金の、財源を確保するためには、公共事業のムダ使いや軍事費にメスを入れるとともに、財源の見直しが必要です。日本共産党は、無駄な道路建設の温床になっている、ガソリン税などの道路特定財源の一部を、年金財源に振り向けることをはじめ、リストラで大もつけをしているのに、ヨーロッパ諸国に比べてたいへん年金負担が軽い大企業に、応分の負担を求めることも必要と考えます。こうすれば、弱いものいじめの消費税増税に頼らなくても、立派に年金制度を支えることができます。日本共産党とともに、希望ある年金制度をつくっていきましょ。さてみなさん、富津市議選が今月の18日に行われます。今度の選挙は、81億円もかけた豪華庁舎など、これまでのムダ使いのツケを、不況と生活苦にあえぐ市民に回すような政治をやめさせ、市民のくらしを応援する市政に変える選挙です。

日本共産党は市議会議員を先頭に、次のお約束実現のために全力をあげます。

まず第一に、高すぎる国保税の一世帯当たり二万円の引き下げをめざします。これまで市は、財政難だと言って、高い国保税や水道料金、学校給食の値上げなど、市民に負担を押しつける一方で、行政サービスをどんどん削ってきました。こうした市民生活の犠牲で、富津市の財政力は、いまや全国トップクラスです。国保会計も黒字で、積立金も五億円以上あります。国保税二万円引き下げの財源は二億円です。その気になれば必ずできます。

二つ目は、特養ホームの増設や、保険料・利用料の減免など、介護保険制度の拡充と、六歳までの医療費の窓口無料化で、お年寄りも若者も安心の富津市をめざします。

三つ目は、図書館の建設です。富津市の市民憲章には「教養を高め、文化の香り高いまちを」とあります。ところがなんと、県内の市で図書館がないのは富津市だけです。みなさんと力を合わせて、ぜひ、図書館建設の計画を作らせましょ。

富津市、地区、街、周辺、津市、大津市、富津市役所

四つ目は都市計画税導入の撤回です。みなさん、この地域では、なんと一世帯六万円にもなる、都市計画税が導入されようとしています。これまでのムダ使いのツケ回しの最たるもので、とんでもありません。なんとしても撤回させるために全力をつくします。

みなさん、いまの富津市議会はどうか。日本共産党の市会議員以外は、市長といっしょになって、第三空港など、いまだに見通しのない大型公共事業に市民の税金を注ぎ込もうとしています。その一方で、国保税引き下げなど、市民の切実な声には冷たい市議会です。日本共産党の市議会議員は、こうした市議会のなかでも、毎回の議会でも市民のみなさんの願いを必ずとりあげ、この四年間にも、みなさんとこっしよにギャンブル場や産廃処分場から市民生活を守って来ました。国保税も高すぎると署名運動に取り組み、議会でもとりあげ、ささやかながら三千円の引き下げも実現しました。

銀行員出身の日本共産党議員は、市政のムダ使いをきびしくチェックし、富津市の豊かな自然とくらしを守るためにがんばります。国保税引き下げなど、市民のみなさんの願い実現のために、誠実に献身する、かけがいのない議席、日本共産党の議員を、これから、議会で働かせてください。

最後に、真実を伝え、希望を運ぶ、日本共産党の「しんぶん赤旗」、日本共産党市議会議員の活躍も伝える、「しんぶん赤旗」のご購読をお願いいたしまして、訴えを終わらせていただきます。「ご清聴」「ご協力ありがとうございました」。